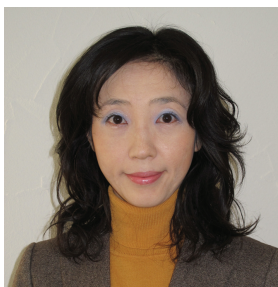


## ● 沢 美喜

大阪大学医学部眼科学教室 学内講師



1995年 大阪市立大学医学部卒業  
大阪大学医学部眼科入局  
1996年 淀川キリスト教病院眼科  
2000年 大阪大学医学部大学院入学  
2004年 Manhattan Eye, Ear and Throat Hospital, Retinal Research Center 留学  
(メディカル網膜で有名なヤヌッチー先生)  
2005年 大阪大学医学部眼科医  
2007年 大阪大学医学部眼科助教員  
2010年 大阪大学医学部眼科学内講師

### 『症例から考える黄斑疾患』

近年、加齢黄斑変性の啓蒙活動によって、地域医療においても黄斑疾患疑い患者に触れる機会が多くなってきた。黄斑疾患の診断には光干渉断層計（OCT）が不可欠であり、OCTがあれば黄斑の異常所見を簡便に発見できるようになってきた。また、造影剤を使用せずに網膜色素上皮の状態を評価できる眼底自発蛍光撮影が普及し、黄斑疾患の補助検査として応用できるようになってきた。しかしながら、これらの最新の検査機器を使用しても診断に迷う場合は少なくない。本講演では、黄斑疾患症例から、OCT、眼底自発蛍光をどのように活用して診療に役立てているか紹介させていただきたい。

## ● 佐々木 香る

星ヶ丘厚生年金病院



1986年 大阪市立大学医学部卒業  
1988年 公立学校共済組合近畿中央病院眼科  
1994年 大阪大学大学院博士課程卒業  
1996年 市立豊中病院眼科  
1998年 多根記念眼科病院  
2003年 宮田眼科病院  
2005年 出田眼科病院  
2012年 星ヶ丘厚生年金病院

【所属学会】日本眼科学会／日本角膜学会 評議員／日本眼感染症学会 評議員  
The Association for Research in Vision and Ophthalmology  
日本白内障屈折矯正手術学会／日本眼科手術学会

### 『日常よくある角結膜感染症をすべて解決するための話』

充血を伴った角結膜感染症は日常診療の多くを占めるが、そのほとんどは抗菌剤を投与することで速やかに治癒する。抗菌剤や角膜保護剤を投与しても予想に反して難治となった時が、日常診療の角結膜感染症において困る場面であると思われる。具体的には①ニューキノロン（NQ）を用いても治癒しない結膜炎として「涙小管炎」「ニューキノロン耐性菌による結膜炎」「眼瞼炎合併結膜炎」、②角膜保護剤を用いても治癒しない線状の角膜病変として、「上皮型ヘルペス」、「アメーバ」、「カタル性潰瘍」、「薬剤毒性角膜炎」、さらには「TS-1による角膜障害」、「神経麻痺性角膜炎」、③ステロイドの投与が必要かどうかかわりにくい角膜浸潤として、「マイボーム腺炎角膜上皮症」などを取り上げる。また後半には、日常臨床で数多いヘルペスの治療を取り上げる。ヘルペスの治療は病型によって大きく異なる。実際の症例所見とそれに対する処方例を紹介する。このような抗菌剤（特にNQ）と角膜保護剤のみでは治らない日常臨床でよくある迷いやすい症例における診るべきポイントと治療を整理していきたい。本講演の内容をマスターしていただければ、「日常診療における角結膜疾患の、ほぼ90%（100%とはいませんが）を治癒させることができる！」をめざして、ノウハウをお伝えできるようにしたい。

## ミニコンサート演奏者プロフィール

## ● 筒井 茂広

津軽三味線

1972年香川県さぬき市生まれ。

大学4年間で沖縄で過ごし、沖縄民謡、獅子舞、エイサーを学ぶ。卒業後帰郷し、故初代高橋竹山氏のCDを聴き、津軽三味線の音色に魅了され、26歳から津軽三味線を始める。竹山氏の経験してきた門付けの旅を体験したく、平成19年1月から4月にかけて、三味線を携え四国八十八ヶ寺歩き遍路を行う。道中は、各寺で奉納演奏を行いつつ、ストリート演奏で資金を稼ぎ、野宿をしながら48日で区切り打ちを終える。

現在は四国を中心に演奏活動、地元中学校にて津軽三味線講師、地元ラジオ局（西日本放送ラジオ）にて、毎週月曜日パーソナリティーを務めている。

